

# 企画展 戦国の寺とその城 — 敏満寺

令和3年(2021年)1月26日(火)～2月20日(土)

戦国時代 敏満寺は兵火に包まれた！！

主催 多賀町立博物館  
協力 多賀町立文化財センター

いま敏満寺という寺院は存在しませんが、残された史料や美術品、発掘調査で明らかとなった事などから、敏満寺は湖東三山(西明寺、金剛輪寺、百濟寺)と並び立つ大寺院だったと考えられています。平安時代の後期頃には堂塔を備えた寺院として存在していたようです

多賀町に存在した敏満寺という寺がなぜ城を造らなくてはならなかったのかその背景を探り、戦国時代の寺院の姿を紹介します。



展示は、滋賀県観光キャンペーン「戦国ワンダーランド 滋賀・びわ湖」の企画展体験のひとつ(31湖東)として実施しています。



青龍山東麓の石仏谷：平成9年～16年にかけて実施された調査で大規模な中世墓地であることが明らかにされました。



名神高速道路 多賀サービスエリア上り線の一角に敏満寺城遺跡があり、静かに敏満寺城の面影を残しています。昭和61年にサービスエリア改良工事に伴う調査では城郭と考えられる遺構が確認されました。



中世の敏満寺は、寺院を中心とした宗教都市といった様相だったと推定されています。



歴史学や考古学を専門としている研究者の考証により、復元画家が描いた最盛期の敏満寺の様子また、常滑窯と瀬戸・美濃窯、中国製の輸入陶磁器 中世の敏満寺には様々な地域から多くの物がもたらされていました



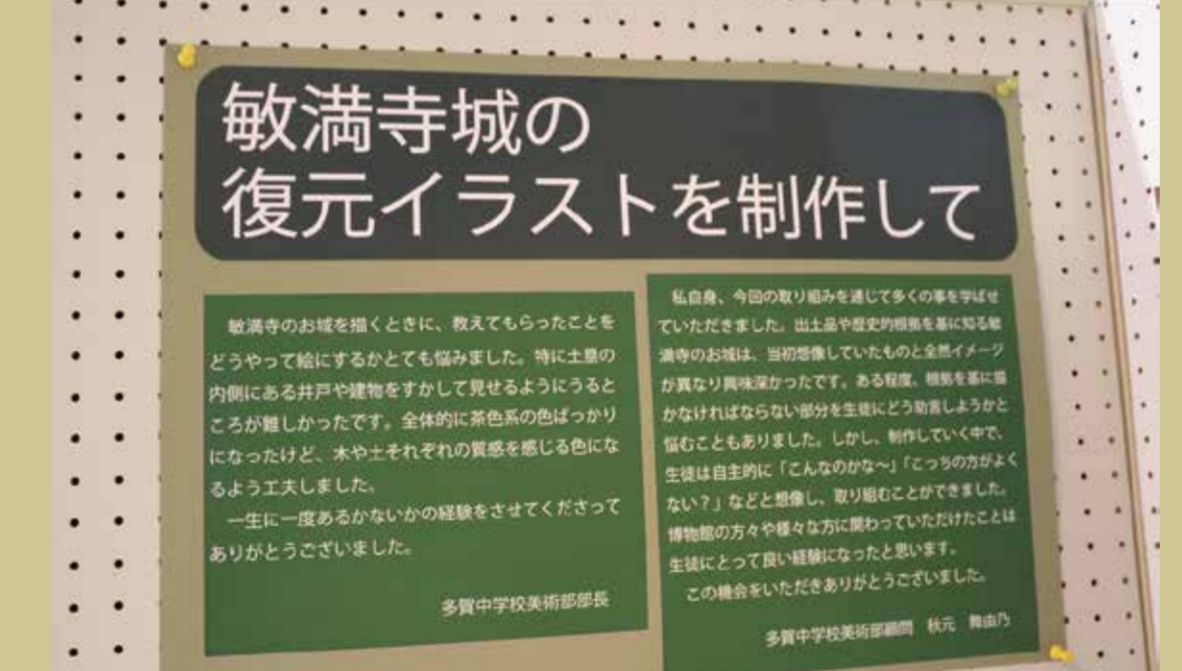
敏満寺は創建以来敏満寺がしばしば争乱に巻き込まれて火災と復興を繰り返してきました。発掘調査の際に礎石の焼けた跡や炭化物層として確認されています。永禄五年(1562年)の浅井長政による久徳城攻めの際の敏満寺焼き討ちと元亀三年(1572年)の織田信長による焼き討ちの記録との関連は???



歴史の中の敏満寺城コーナー 戦国時代のお城の分布や勢力図を見よう



敏満寺城遺跡から出土した石臼や貴重な遺物たち



多賀中学校美術部のみなさんが「敏満寺城」の復元図の作成に取り組んでくださいました。戦国時代の城：力作をご覧ください。



近江の戦国時代：歴史年表の中での敏満寺城の位置づけも学べます



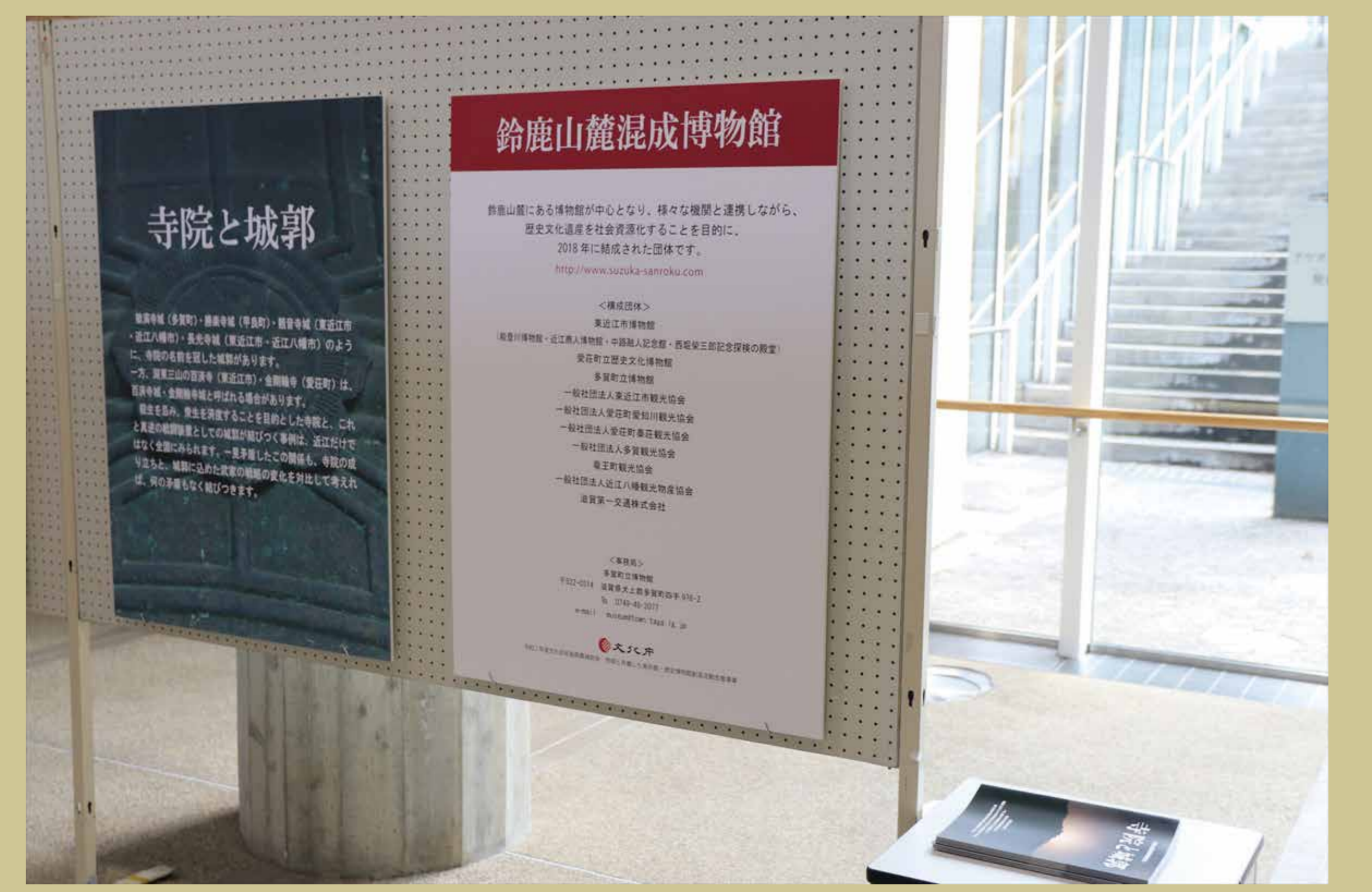
敏満寺城遺跡から出土した手水鉢形石製品



連携展示として、鈴鹿山麓混成博物館(多賀町立博物館が事務局)による企画展「寺院と城郭」が開催されています。近江の寺院と城郭について少し大きな視点から迫ります。敏満寺城の内容も展示されています。

## 鈴鹿山麓混成博物館企画展2 寺院と城郭

令和3年(2021年)1月26日(火)～2月20日(土)



感染防止対策の上、混雑を避けてご観覧ください。

2月20日(土)には、鈴鹿山麓混成博物館の「寺院と城郭」関連フォーラムが別会場(多賀町中央公民館「結いの森」)で行われる予定です。